

# 医学分野の Open Access 誌の現状分析

児玉 閲

杏林大学医学図書館

学術コミュニケーションのツールである学術雑誌は、長い歴史の間、ほとんど画一的な出版スタイルが維持されていたが、インターネットという情報インフラの出現により、新しい情報流通経路を活用した電子ジャーナルが登場するようになった。そしてこの電子ジャーナルは、学術雑誌の価格高騰問題に対して、何らかの解決策を提供し得る可能性があることで注目され、非営利団体と呼ばれる組織のもとで、さまざまなプロジェクトが試みられるようになった。Open Access はそんなプロジェクトから生まれたひとつの出版スタイルといえる。

Open Access は、「インターネット上で自由に入手でき、閲覧、ダウンロード、配布、印刷、検索、全文へのリンク、索引作業のための利用、データのソフトウェアへの転送、他の合法的な用途で利用することを、財政的、法的、および技術的障壁なしに、誰にでも可能とすること」と定義される。「インターネット上で」とある通り、これは学術雑誌の電子化によって初めて可能になったスタイルである。Open Access といえども、雑誌の出版には費用が必要である。この費用については、従来は読む側がお金を払っていたのが当然だった。しかし Open Access の場合は、書く側がお金を支払い、読む側は無料となる。つまり Open Access は、従来とはまったく逆の経済モデルを採用することで、価格高騰問題の解決を目指しているといえる。

Open Access というスタイルを採用した雑誌（Open Access 誌）が研究者に受け入れられるか否か、その答えはまだでない。しかし Directory of Open Access Journals（DOAJ）では、すでに 1000 タイトル以上もの Open Access 誌がリストアップされており、その影響力が少ないとはいえない状況になっている。

そこで本稿では、DOAJ に収録されている Open Access 誌について、とくに医学分野を中心に分析を行い、その現状を明らかにすることを試みる。